

第10回南魚沼市子ども・子育て会議議事録

日時	平成29年3月30日 10:30から
場所	南魚沼市役所本庁舎 301会議室
参加	委員 13名（欠席：佐藤、高村、宮、野澤） 事務局 12名（子育て支援課、保健課、学校教育課） （欠席：教育部長、学校教育課長、学校教育課主幹 子ども・若者育成支援センター長、山崎主幹）

議題

- (1) 平成29年度保育園利用定員について (資料1)

報告

- (1) 新規開園保育園の報告 (資料2)
(2) 新年度からの利用者負担軽減（保育料）について

1. 開会（子育て支援課長） 10：30～

2. 議題

議題(1) 平成29年度保育園利用定員について（事務局より説明）

◎事務局案を承認し、平成29年度の保育園等の利用定員について一部変更し、県と協議を行う。

問1 29年度の利用申込みの状況はどのくらいか

答1 利用定員を設定した段階での入園予定数は、三用65名、赤石59名、大崎111名、藪神98名、浦佐213名、上原74名、あおば96名、五日町72名、四十日49名、宮86名、西五十沢57名、八幡保育園116名、上町69名、下長崎49名、上長崎32名、塩沢84名、中86名、舞子77名、石打29名、上関49名。

3. 報告

報告(1) 新規開園保育園の報告（事務局より説明）

◎平成29年4月より運営を開始する「南魚沼どろんこ保育園」について、事務局より以下の通り報告。

- ① 新潟県の審査会で承認された旨の連絡を受けている。

問2 4月開園ということで施設、人員体制の整備は整っているのか

答2 園からの情報では不足の職員はいない(青木課長)

認可に関しては県の少子化対策課が所管であり、建物の図面・人員体制は書類で審査を通った。監査は新規開設初年度で立入りがあり、適正な保育がされているか確認する。(押木会長)

問 3 社会福祉法人どろんこ会の沿革

答 3 本部は埼玉で全国多くの保育園を運営している。

塩沢の姥島地域で魚沼産コシヒカリを生産していて、この大木六地域で開園したい思いがあった。地域の方の要望もあり、地域の中心の場である今の所で建設に至った。

問 4 保育士・幼稚園教諭の不足している状況で、良い保育をするためには経験、園内での研修や資格の取得などで人を育てることへの対応が必要で、質の向上をお願いしたい。民間では公開保育もしているので、含めて質の向上につなげていってほしい。

答 4 新制度になり、市が責任を持ち市内の子供を育てるということで私立保育園にもお願いしている。公立保育園も同様に保育スキルの向上のため、一緒に研修・情報公開をしながらやっていくようお願いしたい

報告(2) 新年度からの利用者負担軽減(保育料)について(事務局より説明)

◎事務局から以下の通り報告。

平成 29 年度からの保育料軽減の変更について

- ① 市町村民税非課税世帯(2-1、2-2 階層)の第 2 子無償化
- ② 年収 360 万円未満相当世帯で、ひとり親世帯等の保護者負担軽減の拡充
・ 市民税所得割額が 77,101 円以下で 1 号認定の第 1 子は 3,000 円
2・3 号認定の第 1 子は上限 6,000 円
- ③ 1 号認定で 3-2 階層の国基準の上限引き下げ、第 1 子 14,100 円
第 2 子 7,050 円
前年度の南魚沼は国基準より低いため変更なし

保育料の通知について新規児童は郵送、継続児童は入園式の日に関各園から配布。通知には 29 年度からの軽減は含まれていないため、国の正式な通知が出てから(4月中旬頃)後日対象者に通知

4. その他

◎子育て・働き方ハンドブックについて

子育ての大変さ、子育てのやり方、ワークライフバランスの環境をどうやって作っていくのかを議論し作ったもの。未来予想図とし年齢別に色々な方が集まり子供のかかわり方をまとめたもので参考にしてほしい。

問 5 27年度子ども子育て支援新制度になるにあたって、今まで保育園に通っていた子が入れなくなるのを防ぐための特別利用保育を利用しているのは何人くらいか。また保育料の軽減はあるのか

答 5 地域に入れる幼稚園・認定こども園がない場合、保育園を1号認定で利用できる特別利用保育の利用人数は、毎月10人ずつくらい。数か月保育園に入れられない方が利用するため、ずっと利用しているわけではなく月によって変動がある。保育料については1号認定の金額

問 6 早期入園児童を受け入れる制度について趣旨・目的をしっかりと継承してほしい

答 6 要望についてきちんと継承していきたい

5. 閉会 11:30